



開物成務

令和5年7月20日(木)発行

校長 津田 千由美

体験を通じた学び

日本海側の豪雨による被害が心配されますが、関東地方も連日の猛暑で朝から気温はかなり上昇しています。汗びっしょりになりながら元気に登校してくる子どもたちを見ていると、弱音など吐いてはいただけませんが、夏休みが待ち遠しいです。

保護者の皆様には、暑さ厳しい折、個別面談にお越しいただき、ありがとうございました。短い時間ではありましたが、あゆみの記載だけではなかなか伝えきれない部分を、相互のやり取りの中でより具体的に伝え、また、保護者からも不安や心配事をお聞きすることができました。今後も互いの対話をとおして共通理解を図りながら、次へのステップを模索していきたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

色水遊び体験～1年生～

1年生の教室をのぞくと、「校長先生、見て、見て!」と、何人もの子どもたちが得意げに見せてくれたもの…それは朝顔の色水でした。

4月に種を植え、登校すると健気に水やりをしている1年生の姿を毎日みていました。芽が出ては喜び、双葉が出ては喜び、とうとう6月には大輪の花が次々と咲きだしました。

観察カードにこんな言葉を見つけました。

「はなが いっぱい あったよ。つるがすごくのびてたよ。つぼみが いっぱい あったよ」
まるで、子どもたちと朝顔とで、どちらがより大きくなるか競争しているようです。

色水に変身して子どもたちに喜んでもらえたことで、しぼんでしまった花もきっと喜んでいることでしょう。



皮むき体験～2年生～

コロナ禍でしばらく実施が見送られていた「トウモロコシ皮むき体験」が、4年ぶりに行われました。残念ながら2年2組は学級閉鎖中でしたので、2年1組だけの参加となりました。

今回使用したトウモロコシは、PTA会長の宮上さんが栽培されているもので、「ホワイトシヨコラ」という大変貴重な品種のトウモロコシです。生でも食べられるくらい、とても甘みのある品種だそうです。

柳川栄養教諭から、トウモロコシの栄養や皮のむき方について教えていただき、いざ皮むき開始。目標は一人5本です。

「先生、先が折れないから手伝って」
「先生、このひげみたいなの、どうするの?」
初めての子どもが多く、最初はなかなか上手くおけませんでしたが、本数を重ねていくうちにみるみる上達し、どの子も最後には達成感を得ていました。

その日の給食で提供されたゆでトウモロコシは格別においしかったことは言うまでもありません。



挿し木体験～3年生～

あじさい祭りが終わり、今を盛りと咲き誇っていたあじさいの花々は、次の世代のために剪定されました。

3年生は、総合的な学習の時間「開成町とあじさい」の学習の中で、一人一鉢あじさいの挿し木を育てることになりました。あじさい祭りや調べ学習をとおして、自分が育てたいあじさいの花を各々決めました。先日は、あじさい名人の遠藤商事の遠藤さん、グリーンガラスの小野さんにお手伝いいただき、剪定の仕方や育て方について教えていただきました。

「小野さんからまほうの粉をもらい、くわしく教えてもらってうれしかったです。」

このあじさいが花をひらくのは1年後、子どもたちは4年生になっています。楽しみです。

清掃工場見学～4年生～

4年生は社会科の学習で、開成町のごみのゆくえについて学び、そのまとめとして清掃工場を見学しました。子どもたちは清掃工場で働く方の様子や実際の作業工程を目にし、自分の生活を見つめ直しました。帰校後に書いたお礼の手紙の中には、その時に感じたことが綴られていました。

「これからごみを捨てる時に、燃えるごみのところに燃えないゴミを入れないように気を付けます」

「家に帰ってごみを捨てる時、このゴミはどうなるかなと想像して捨てたいと思います」

「ごみを捨てるのは簡単だけれど、捨てた後は大変なんだなと思いました」

また、ある子どもが、清掃作業員にごみを処理するときの気持ちを尋ねたそうです。

「なくてはならない仕事だからほこりをもっています」

多くの子どもたちが心を動かされたことでしょう。まさに百聞は一見に如かず、リアルな体験こそその学びです。



学年交流授業～高学年～

4月から、高学年では学年交流授業を試みています。各担任が別々の教科を受け持ち、自学級以外の授業を受け持つという仕組みです。担任以外の教員が学級に入ることによって、子どもにとっては、身近な大人が複数いるという安心感が生まれます。中学校へ向けての心の準備期間ともなります。

また、教員にとっても、受け持つ教科数が減る分、教材準備が入念にできるというメリットがあります。

時間割を組むのはパズルのようにとても複雑ですが、子どもたちのより良い成長と学びの定着を目指し、今後も工夫して取り組んでまいります。

「困難に立ち向かう力は失敗からしか学べない」

これは、ある子育てアドバイザーのひとことでした。衝撃でした。

もうすぐ夏休み。子どもたちは首を長くして待ち望んでいることでしょう。さて、こんな場面に出くわしたらあなたはどうしますか。

子どもと話し合って夏休み中の仕事（「お手伝い」ではなく「仕事」です）を決めました。それは、夕飯時の米とぎと炊飯器のスイッチを入れること。

ある日、母親が仕事から帰ってくると、ご飯が炊けていませんでした。どうやら遊びに夢中になりすっかり忘れてしまったようです。

あなたが母親ならどうしますか？

A めんどくさいから自分でやってしまう

B 「ご飯食べられないじゃない！すぐにやりなさい！」と叱る

C 「ご飯炊けてないけれど、どうしたらいいかな？」と問いかける

実はこれ、十数年前の我が家の出来事でした。当時、私はAの対応をしたことを覚えています。1日中仕事をして体も心もヘトヘト…無駄な争いはしたくないし、早く夕食にしたかったからです。でも、よく考えると、この対応は子どもの失敗を親が尻拭いしていることになりそうです。子どもしてみれば、「自分がやらなくてもどうせ親がやってくれるじゃん」ということになります。

Bはどうでしょう。ただ叱るだけでは子どもの行動変容にはつながりません。子どもしてみれば、ちよっとした失敗を咎められるわけですから、叱られないように親の目を気にしたり、ばれないように隠したり、失敗のできない子になりかねません。

つまり、親がやるべきことは、「子どもに任せて、失敗したときには今後の行動変容を促すこと」だそうです。魔法の言葉があります。

「どうしたらいいかな？」

時間的にも少しゆとりのある夏休みです。ぜひ、失敗をしても親が解決をしない、子ども自身に解決させるというチャレンジをさせてみてください。ひと回り成長した子どもたちに再会できることを楽しみにしています。皆様にとってよい夏休みを…。



わたしのひとりごと…